

## 膵切除・肝切除の周術期治療成績の改善に向けた予測因子解析

### 研究キーワード

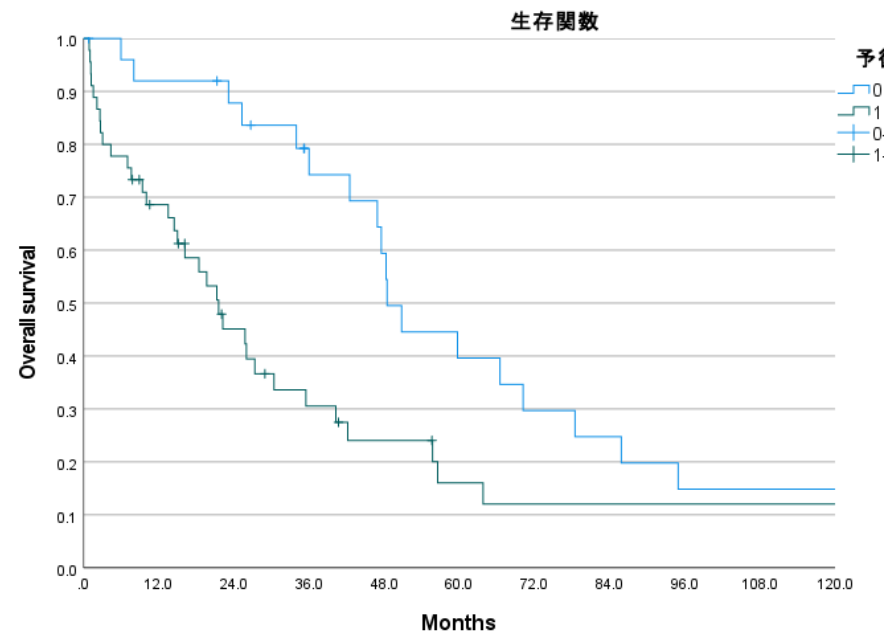
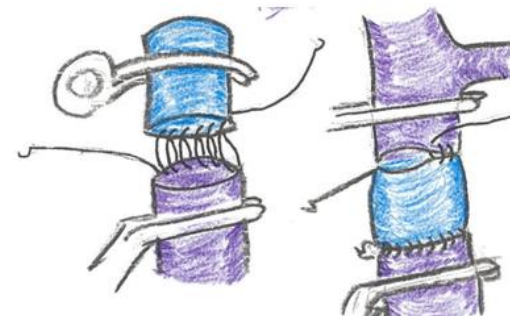
膵頭十二指腸切除、膵体尾部切除、肝切除、術後合併症、無再発生存、再発生存、統計解析

### 研究概要

21世紀に入り、消化器癌の外科手術の手技や周術期管理、さらに術前後の薬物・放射線併用療法は飛躍的に発展したが、肝胆膵癌は臓器特性や解剖の複雑さのために術後成績はいまだ満足するものでなく改善が必要である。

肝臓領域では大腸癌肝転移や肝細胞癌が主な対象疾患となるが、ともに再発に対する肝切除を積極的に行うことで治癒を目指す再肝切除対象の絞り込みは十分でなく、薬物療法との組み合わせで予後改善が期待されるが正確な成績は示せていない。

膵臓領域では術後膵液漏に伴う合併症が数十年の歴史を経てもわずかな改善しかみられないのが現状である。当講座でも種々のリスク因子を洗い出して対策を練ったり、新たな合併症予防法開発を試みており、その効果を今後検証していく予定である。



### SA学生さんへのアピールポイント

- 肝臓領域、膵臓領域の短期成績・長期成績のデータベース構築の最中であり、結果をもらってただ解析するだけでなく、データベースの入力方法や注意点を手取り取り教えて実行してもらいます。この方針によりこれまでのSA学生さんからも「臨床研究への参加」感を強く実感してもらっています。
- 当講座主任の有田は、これまでに多数の前向き研究（いくつかのランダム化比較研究を含む）や後向き研究行っており、研究プロトコルの立て方や統計解析の手法についてはさまざまな面からサポートします。
- 臨床研究を行うことで、実際に診療を受ける患者さんの合併症を回避したり、がん手術からの治癒を促進することに直接寄与できます。まさに臨床医としてのやりがいを感じられ、それがさらに研究を後押しします。是非一緒に患者さんのために手を動かしましょう！